

# 低圧季節別時間帯別電力

( 選 択 約 款 )

平成21年4月1日 実施

中 部 電 力 株 式 会 社

# I 本 則

## 1 目 的

この選択約款は、季節別時間帯別に設定された料金によって、より電力需要の少ない時間帯への負荷移行を促進し、電力設備の効率的な使用に資することを目的といたします。

## 2 選択約款の届出および変更

- (1) この選択約款は、電気事業法第19条第7項の規定にもとづき、経済産業大臣に届け出たものです。
- (2) 当社は、この選択約款を変更することがあります。この場合には、電気料金その他の供給条件は、変更後の選択約款によります。
- (3) 当社は、電気供給約款（平成21年3月3日届出。以下「供給約款」といいます。）を変更した場合には、この選択約款を変更いたします。

## 3 適用範囲

供給約款の低圧電力の適用範囲に該当する需要で、お客さまがこの選択約款の適用を希望される場合に適用いたします。

## 4 契約負荷設備

契約負荷設備をあらかじめ設定していただきます。

## 5 契約電力

- (1) 契約電力は、契約負荷設備の各入力（出力で表示されている場合等は、供給約款別表3〔負荷設備の入力換算容量〕によって換算するものいたします。）についてそれぞれ次のイの係数を乗じてえた値の合計にロの係数を乗じてえた値といたします。ただし、電気機器の試験用に電気を使用される場合等特別の事情がある場合は、その回路において使用される最大電流を制限できるしゃ断器その他の適当な装置をお客さまに施設していただき、その容量を当該回路において使用される契約負荷設備の入力とみな

します。この場合、その容量は供給約款別表 6（契約容量および契約電力の算定方法）に準じて算定し、ロの係数を乗じないものといたします。

イ 契約負荷設備のうち

最大の入力 のものから	最初の 2 台の入力につき	100パーセント
	次の 2 台の入力につき	95パーセント
	上記以外のものの入力につき	90パーセント

ロ イによってえた値の合計のうち

最初の 6 キロワットにつき	100パーセント
次の 14 キロワットにつき	90パーセント
次の 30 キロワットにつき	80パーセント
50 キロワットをこえる部分につき	70パーセント

(2) お客さまが契約主開閉器により契約電力を定めることを希望される場合には、契約電力は、(1)にかかわらず、契約主開閉器の定格電流にもとづき、供給約款別表 6（契約容量および契約電力の算定方法）により算定された値といたします。この場合、契約主開閉器をあらかじめ設定していただきます。

なお、当社は、契約主開閉器が制限できる電流を、必要に応じて確認いたします。

(3) お客さまが契約用しゃ断器（使用する最大電流を制限する当社のしゃ断器をいいます。）により契約電力を定めることを希望される場合には、契約電力は、(1)にかかわらず、お客さまの申出によって当社が取り付ける契約用しゃ断器の定格電流にもとづき、供給約款別表 6（契約容量および

契約電力の算定方法)により算定された値といたします。この場合、契約用しゃ断器の定格電流は、10アンペア、20アンペア、30アンペア、40アンペア、50アンペア、60アンペア、70アンペア、80アンペア、90アンペア、100アンペア、110アンペア、120アンペア、130アンペアまたは140アンペアのいずれかといたします。

## 6 季節区分および時間帯区分

(1) 季節区分は、次のとおりといたします。

イ 夏 季

毎年7月1日から9月30日までの期間をいいます。

ロ その他季

毎年10月1日から翌年の6月30日までの期間をいいます。

(2) 時間帯区分は、次のとおりといたします。

イ 昼間時間

毎日午前7時から午後11時までの時間をいいます。

ロ 夜間時間

昼間時間以外の時間をいいます。

## 7 料 金

料金は、早収期間内に支払われる場合には早収料金とし、早収期間経過後に支払われる場合には遅収料金といたします。ただし、供給約款27(料金の算定)(1)イの場合で、需給契約が消滅したときに供給約款28(日割計算)に準じて日割計算をしてえた料金については、早収料金といたします。

(1) 早収料金

早収料金は、基本料金および電力量料金の合計といたします。ただし、基本料金は、ハによって力率割引または割増しをする場合は、力率割引または割増しをしたものといたします。また、電力量料金は、別表(燃料費

調整) 1(1)によって算定された平均燃料価格が29,500円を下回る場合は、別表(燃料費調整) 1(4)によって算定された燃料費調整額を差し引いたものとし、別表(燃料費調整) 1(1)によって算定された平均燃料価格が29,500円を上回る場合は、別表(燃料費調整) 1(4)によって算定された燃料費調整額を加えたものとしたします。

#### イ 基本料金

基本料金は、契約電力に応じ1月につき次のとおりとしたします。ただし、まったく電気を使用しない場合の基本料金は、半額としたします。

1契約につき最初の3キロワットまで	3,465円00銭
上記をこえる1キロワットにつき	1,092円00銭

#### ロ 電力量料金

電力量料金は、その1月の時間帯別の使用電力量によって算定いたします。

##### (イ) 昼間時間

昼間時間のうち、夏季に使用された電力量には夏季料金を、その他季に使用された電力量にはその他季料金をそれぞれ適用いたします。

なお、その1月に夏季およびその他季がともに含まれる場合には、その1月の使用電力量をその1月に含まれる夏季およびその他季の日数の比であん分してえた値をそれぞれの使用電力量としたします。

	夏 季 料 金	その他季料金
1キロワット時につき	12円95銭	11円77銭

(ロ) 夜間時間

1キロワット時につき
------------

9円33銭
-------

ハ 力率割引および割増し

電気機器の力率をそれぞれの入力によって供給約款別表4（加重平均力率の算定）により加重平均してえた値が、85パーセントを上回る場合（5〔契約電力〕(2)または(3)により契約電力を定める場合を含みます。）は、基本料金を5パーセント割引し、85パーセントを下回る場合は、基本料金を5パーセント割増しいたします。この場合、電気機器の力率は、供給約款別表5（進相用コンデンサ取付容量基準）の基準に適合した容量の進相用コンデンサが取り付けられているものについては90パーセント、取り付けられていないものについては80パーセント、電熱器については100パーセントといたします。

なお、まったく電気を使用しないその1月の力率は、85パーセントとみなします。

(2) 遅収料金

遅収料金は、早収料金にその3パーセントを加えたものといたします。

**8 使用電力量の計量**

使用電力量の計量は、原則として各時間帯別に行ないます。この場合、それぞれの使用電力量の計量は、供給約款26（使用電力量の計量）に準ずるものといたします。

**9 契約期間**

契約期間は、次によります。

- (1) 契約期間は、需給契約またはその変更が成立した日から、料金適用開始の日以降1年目の日までといたします。

- (2) 契約期間満了に先だって需給契約の消滅または変更がない場合は、需給契約は、契約期間満了後も1年ごとに同一条件で継続されるものとしたします。
- (3) 契約期間満了に先だって、原則として低圧電力または選択約款の低圧高利用契約に需給契約を変更することはできません。

## 10 その他

- (1) その他の事項については、供給約款の低圧電力にかかわる規定を準用するものとしたします。
- (2) この選択約款の実施上必要な細目的事項については、Ⅱ（実施細目）によるものとしたします。

## Ⅱ 実施細目

### 1 適用範囲

低圧高利用契約または低圧季節別時間帯別電力から低圧電力に変更された後1年に満たないお客さまについては、低圧季節別時間帯別電力を適用いたしません。

### 2 その他

お客さまが契約電力を新たに設定し、または増加された後1年に満たないで電気の使用を廃止または契約電力を減少しようとする場合は、供給約款47（需給開始後の需給契約の廃止または変更にともなう料金および工事費の精算）に準じて精算いたします。

なお、この場合、契約電力を減少しようとするときの各時間帯別の使用電力量は、契約電力の減少分と残余分の比であん分したものといたします。

## 附 則

### 1 実施期日

この選択約款は、平成21年4月1日から実施いたします。

### 2 燃料費調整についての特別措置および経過措置

#### (1) 燃料費調整

平成21年4月の検針日から平成22年3月の検針日の前日までの期間における、本則7（料金）(1)の電力量料金について、燃料費調整（燃料費調整額を加えることまたは差し引くことをいいます。）は、I（本則）の規定によらず、燃料費調整単価が(3)ロ(イ)により算定される場合は、(4)によって算定された燃料費調整額を差し引くものとし、燃料費調整単価が(3)ロ(ロ)、(ハ)または(ニ)により算定される場合は、(4)によって算定された燃料費調整額を加えるものといたします。

#### (2) 平均燃料価格

原油換算値1キロリットル当たりの平均燃料価格は、貿易統計の輸入品の数量および価額の値にもとづき、次の算式によって算定された値といたします。

なお、平均燃料価格は、100円単位とし、100円未満の端数は、10円の位で四捨五入いたします。

$$\text{平均燃料価格} = A \times \alpha + B \times \beta + C \times \gamma$$

A = 各平均燃料価格算定期間における1キロリットル当たりの平均原油価格

B = 各平均燃料価格算定期間における1トン当たりの平均液化天然ガス価格

C = 各平均燃料価格算定期間における1トン当たりの平均石炭価格

$$\alpha = 0.0445$$

$$\beta = 0.4282$$

$$\gamma = 0.5104$$

なお、各平均燃料価格算定期間における1キロリットル当たりの平均原油価格、1トン当たりの平均液化天然ガス価格および1トン当たりの平均石炭価格の単位は、1円とし、その端数は、小数点以下第1位で四捨五入いたします。

### (3) 燃料費調整単価

#### イ 基準となる燃料費調整単価

(イ) 基準となる燃料費調整単価（以下「基準燃料費調整単価」といいます。）は、次の算式によって算定された値といたします。

なお、基準燃料費調整単価の単位は、1銭とし、その端数は、小数点以下第1位で四捨五入いたします。

a 1キロリットル当たりの平均燃料価格が29,500円を下回る場合

$$\text{基準燃料費調整単価} = (29,500\text{円} - \text{平均燃料価格}) \times \frac{\text{(5)の基準単価}}{1,000}$$

b 1キロリットル当たりの平均燃料価格が29,500円を上回り、かつ、44,300円以下の場合

$$\text{基準燃料費調整単価} = (\text{平均燃料価格} - 29,500\text{円}) \times \frac{\text{(5)の基準単価}}{1,000}$$

c 1キロリットル当たりの平均燃料価格が44,300円を上回る場合  
平均燃料価格は、44,300円といたします。

$$\text{基準燃料費調整単価} = (44,300\text{円} - 29,500\text{円}) \times \frac{\text{(5)の基準単価}}{1,000}$$

(ロ) 各平均燃料価格算定期間の平均燃料価格によって算定された基準燃料費調整単価は、その平均燃料価格算定期間に対応する次の基準燃料費調整単価適用期間に使用される電気に適用となる燃料費調整単価の

算定に適用いたします。

平均燃料価格算定期間	基準燃料費調整単価適用期間
平成20年12月1日から平成21年2月28日までの期間	平成21年4月の検針日から平成21年5月の検針日の前日までの期間
平成21年1月1日から平成21年3月31日までの期間	平成21年5月の検針日から平成21年6月の検針日の前日までの期間
平成21年2月1日から平成21年4月30日までの期間	平成21年6月の検針日から平成21年7月の検針日の前日までの期間
平成21年3月1日から平成21年5月31日までの期間	平成21年7月の検針日から平成21年8月の検針日の前日までの期間
平成21年4月1日から平成21年6月30日までの期間	平成21年8月の検針日から平成21年9月の検針日の前日までの期間
平成21年5月1日から平成21年7月31日までの期間	平成21年9月の検針日から平成21年10月の検針日の前日までの期間
平成21年6月1日から平成21年8月31日までの期間	平成21年10月の検針日から平成21年11月の検針日の前日までの期間
平成21年7月1日から平成21年9月30日までの期間	平成21年11月の検針日から平成21年12月の検針日の前日までの期間
平成21年8月1日から平成21年10月31日までの期間	平成21年12月の検針日から平成22年1月の検針日の前日までの期間
平成21年9月1日から平成21年11月30日までの期間	平成22年1月の検針日から平成22年2月の検針日の前日までの期間
平成21年10月1日から平成21年12月31日までの期間	平成22年2月の検針日から平成22年3月の検針日の前日までの期間

ロ 平成21年4月の検針日から平成22年3月の検針日の前日までの期間に  
使用される電気に適用となる燃料費調整単価

平成21年4月の検針日から平成22年3月の検針日の前日までの期間に  
使用される電気に適用となる燃料費調整単価は、次の算式によって算定  
された値といたします。

(イ) 1キロリットル当たりの平均燃料価格が29,500円を下回り、かつ、  
基準燃料費調整単価が、ハに定める特別措置の燃料費調整単価および  
経過措置の燃料費調整単価の合計以上となる場合

$$\text{燃料費調整単価} = \text{基準燃料費調整単価} - \left( \text{ハに定める特別措置の燃料費調整単価} + \text{ハに定める経過措置の燃料費調整単価} \right)$$

(ロ) 1キロリットル当たりの平均燃料価格が29,500円を下回り、かつ、  
基準燃料費調整単価が、ハに定める特別措置の燃料費調整単価および  
経過措置の燃料費調整単価の合計を下回る場合

$$\text{燃料費調整単価} = \left( \text{ハに定める特別措置の燃料費調整単価} + \text{ハに定める経過措置の燃料費調整単価} \right) - \text{基準燃料費調整単価}$$

(ハ) 1キロリットル当たりの平均燃料価格が29,500円の場合

$$\text{燃料費調整単価} = \text{ハに定める特別措置の燃料費調整単価} + \text{ハに定める経過措置の燃料費調整単価}$$

(ニ) 1キロリットル当たりの平均燃料価格が29,500円を上回る場合

$$\text{燃料費調整単価} = \text{基準燃料費調整単価} + \left( \text{ハに定める特別措置の燃料費調整単価} + \text{ハに定める経過措置の燃料費調整単価} \right)$$

ハ 特別措置の燃料費調整単価および経過措置の燃料費調整単価

特別措置の燃料費調整単価および経過措置の燃料費調整単価は、次の  
とおりといたします。

	適用期間	特別措置の 燃料費調整単価	経過措置の 燃料費調整単価
1キロワット時 につき	平成21年4月の検針日から 平成21年5月の検針日の前 日までの期間	34銭	37銭
	平成21年5月の検針日から 平成21年6月の検針日の前 日までの期間	34銭	37銭
	平成21年6月の検針日から 平成21年7月の検針日の前 日までの期間	34銭	37銭
	平成21年7月の検針日から 平成21年8月の検針日の前 日までの期間	34銭	37銭
	平成21年8月の検針日から 平成21年9月の検針日の前 日までの期間	34銭	37銭
	平成21年9月の検針日から 平成21年10月の検針日の前 日までの期間	—	37銭
	平成21年10月の検針日から 平成21年11月の検針日の前 日までの期間	—	36銭
	平成21年11月の検針日から 平成21年12月の検針日の前 日までの期間	—	36銭
	平成21年12月の検針日から 平成22年1月の検針日の前 日までの期間	—	36銭
	平成22年1月の検針日から 平成22年2月の検針日の前 日までの期間	—	36銭
	平成22年2月の検針日から 平成22年3月の検針日の前 日までの期間	—	36銭

(4) 燃料費調整額

燃料費調整額は、その1月の使用電力量に(3)によって算定された燃料費調整単価を適用して算定いたします。

(5) 基準単価

基準単価は、平均燃料価格が1,000円変動した場合の値とし、次のとおりといたします。

1キロワット時につき	18銭8厘
------------	-------

(6) 燃料費調整単価等の掲示

当社は、(2)の各平均燃料価格算定期間における1キロリットル当たりの平均原油価格、1トン当たりの平均液化天然ガス価格、1トン当たりの平均石炭価格および(3)によって算定された燃料費調整単価を当社の事務所に掲示いたします。

**3 この選択約款の実施にともなう切替措置**

平成21年4月の検針日の前日までに使用される電気については、変更前の選択約款の低圧季節別時間帯別電力（平成20年2月26日届出。）および供給約款等以外の供給条件（平成20年10月31日認可。）により料金を算定するものといたします。

## 別 表（燃料費調整）

### 1 燃料費調整額の算定

#### (1) 平均燃料価格

原油換算値 1 キロリットル当たりの平均燃料価格は、貿易統計の輸入品の数量および価額の値にもとづき、次の算式によって算定された値といたします。

なお、平均燃料価格は、100円単位とし、100円未満の端数は、10円の位で四捨五入いたします。

$$\text{平均燃料価格} = A \times \alpha + B \times \beta + C \times \gamma$$

A = 各平均燃料価格算定期間における 1 キロリットル当たりの平均原油価格

B = 各平均燃料価格算定期間における 1 トン当たりの平均液化天然ガス価格

C = 各平均燃料価格算定期間における 1 トン当たりの平均石炭価格

$$\alpha = 0.0445$$

$$\beta = 0.4282$$

$$\gamma = 0.5104$$

なお、各平均燃料価格算定期間における 1 キロリットル当たりの平均原油価格、1 トン当たりの平均液化天然ガス価格および 1 トン当たりの平均石炭価格の単位は、1 円とし、その端数は、小数点以下第 1 位で四捨五入いたします。

#### (2) 燃料費調整単価

燃料費調整単価は、次の算式によって算定された値といたします。

なお、燃料費調整単価の単位は、1 銭とし、その端数は、小数点以下第 1 位で四捨五入いたします。

イ 1キロリットル当たりの平均燃料価格が29,500円を下回る場合

$$\text{燃料費調整単価} = (29,500\text{円} - \text{平均燃料価格}) \times \frac{2 \text{ の基準単価}}{1,000}$$

ロ 1キロリットル当たりの平均燃料価格が29,500円を上回り、かつ、44,300円以下の場合

$$\text{燃料費調整単価} = (\text{平均燃料価格} - 29,500\text{円}) \times \frac{2 \text{ の基準単価}}{1,000}$$

ハ 1キロリットル当たりの平均燃料価格が44,300円を上回る場合  
平均燃料価格は、44,300円といたします。

$$\text{燃料費調整単価} = (44,300\text{円} - 29,500\text{円}) \times \frac{2 \text{ の基準単価}}{1,000}$$

(3) 燃料費調整単価の適用

各平均燃料価格算定期間の平均燃料価格によって算定された燃料費調整単価は、その平均燃料価格算定期間に対応する次の燃料費調整単価適用期間に使用される電気に適用いたします。

平均燃料価格算定期間	燃料費調整単価適用期間
毎年1月1日から3月31日までの期間	その年の5月の検針日から6月の検針日の前日までの期間
毎年2月1日から4月30日までの期間	その年の6月の検針日から7月の検針日の前日までの期間
毎年3月1日から5月31日までの期間	その年の7月の検針日から8月の検針日の前日までの期間
毎年4月1日から6月30日までの期間	その年の8月の検針日から9月の検針日の前日までの期間
毎年5月1日から7月31日までの期間	その年の9月の検針日から10月の検針日の前日までの期間
毎年6月1日から8月31日までの期間	その年の10月の検針日から11月の検針日の前日までの期間
毎年7月1日から9月30日までの期間	その年の11月の検針日から12月の検針日の前日までの期間
毎年8月1日から10月31日までの期間	その年の12月の検針日から翌年の1月の検針日の前日までの期間
毎年9月1日から11月30日までの期間	翌年の1月の検針日から2月の検針日の前日までの期間
毎年10月1日から12月31日までの期間	翌年の2月の検針日から3月の検針日の前日までの期間
毎年11月1日から翌年の1月31日までの期間	翌年の3月の検針日から4月の検針日の前日までの期間
毎年12月1日から翌年の2月28日までの期間（翌年が閏年となる場合は、翌年の2月29日までの期間）	翌年の4月の検針日から5月の検針日の前日までの期間

#### (4) 燃料費調整額

燃料費調整額は、その1月の使用電力量に(2)によって算定された燃料費調整単価を適用して算定いたします。

### 2 基準単価

基準単価は、平均燃料価格が1,000円変動した場合の値とし、次のとおりといたします。

1キロワット時につき	18銭8厘
------------	-------

### 3 燃料費調整単価等の揭示

当社は、1(1)の各平均燃料価格算定期間における1キロリットル当たりの平均原油価格、1トン当たりの平均液化天然ガス価格、1トン当たりの平均石炭価格および1(2)によって算定された燃料費調整単価を当社の事務所に揭示いたします。